

## 小学校 学力調査の結果より

### 【国語】

すべての問題を通して、無解答率について大きな改善がみられました。最終問題に近づくほど無解答率が高くなるといった課題が昨年度はみられましたが、その部分に改善がみられたことが大きく影響しています。一方で、書くことの領域については、依然として課題がみられます。特に「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」についての設問では、正答率が約2割となっています。今後も、各授業において、効果的に書く活動を取り入れるなどの必要があります。

### 【算数】

今年度も昨年度に引き続き、全国の平均正答率を上回る問題が見受けられました。特に「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができる」についての設問は、約8割を超える児童ができており、全国の正答率を上回っています。しかしその一方で、「正三角形の意味や性質について理解しているか」についての設問では課題がみられます。基礎的な知識や技能の着実な定着に加え、図形や数学的な用語を、言葉や式を用いて表現するような実践の充実が求められます。

## 中学校 学力調査の結果より

### 【国語】

生徒質問紙調査「文章で書く問題について、どのように解答しましたか」について、「最後まで解答を書く努力をした」と回答した生徒が約8割となっており、全国を上回っています。無解答率についても良好な状態が継続しており、学びに向かう意欲の高まりを感じます。今後も、教員の確かな関わりによる「学び合う」授業づくりをすすめ、他者と関わりながら、与えられた文章を確実に読みきる力を育成する必要があります。

### 【数学】

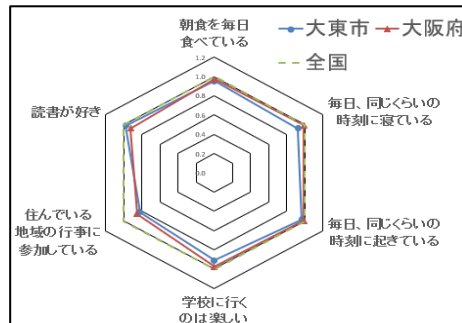
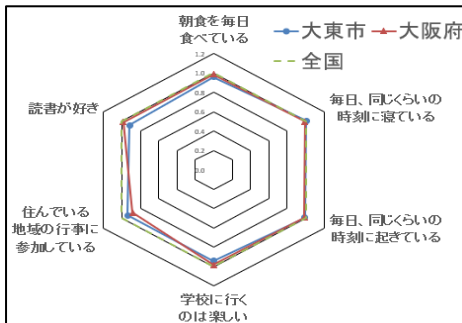
無解答率について大きな改善がみられ、大阪府を下回るなど、非常に良好な結果となりました。生徒質問紙調査「数学の授業の内容はよく分かりますか」についても、強い肯定を示す回答が全国を上回っており、そこから日常的な実践の充実がうかがえます。一方で、「数と整式の乗法の計算」や、「四分位範囲の意味を理解しているか」などの設問については課題がみられるため、引き続き、丁寧な取組みが求められます。

### 【英語】

英語の実施は4年ぶり2回目でした。前回の調査との比較では、無解答率はやや改善したものの、全体を通じて課題のみられる結果となりました。生徒質問紙調査「授業でまとめた内容を英語で発表する活動が行われていた」においては、肯定的な回答が全国を上回っていることから、実践を確かな学力へと結び付けるための取組みの、一層の充実が求められます。

## 児童・生徒質問紙より

### 【資料1】生活の様子（左：小学校、右：中学校）

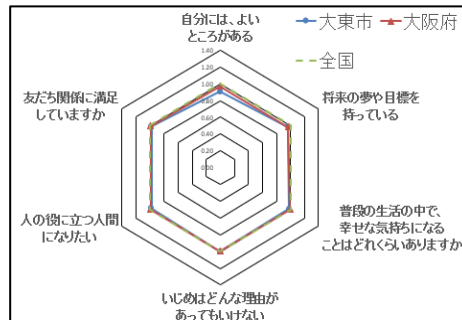
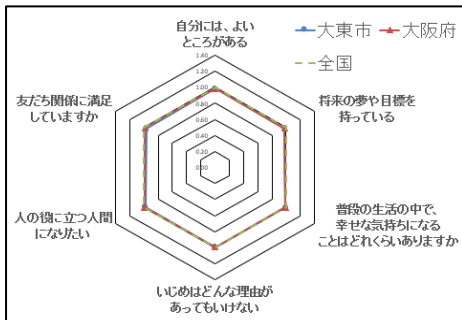


\*小・中学校とも、生活習慣はほぼ全国並みです。  
\*中学校では、特に「読書が好き」の項目が高く、日常的に読書に親しんでいる様子が見えがええます。



大東市教育委員会では、大東市教育大綱及び「だいたう教育ビジョン2022」を基に、「大東のめざす子ども像」の実現に向けて、授業改善に取り組んでいます。

### 【資料2】自己肯定感・規範意識（左：小学校、右：中学校）



\*小・中学校とも、ほとんどの項目でほぼ全国並みです。  
\*小学校では、特に「自分にはよいところがある」について、昨年度からの伸びがみられます。

教員の確かな関わりによる「学び合う」授業づくりの推進や、学校・家庭・地域での丁寧な関わり等により、子どもどうしのつながりが醸成され、子どもたちに自己肯定感や規範意識等、集団の一員としての生活態度や自覚が育まれています。今後も、予測困難で変化の激しい社会の中で、各々が他者と協同することで生き抜く力を育成し、確かな学力を身に付けられるよう、取り組んでいくことが重要です。